

研究者として、牧師として互いに支え合ってきました。 ここで、また、二人の新しい人生が始まりました

佐倉(ゆうゆうの里)

安藤 俊就様(79歳)・博子様(73歳) 平成29年9月 夫婦入居

「牧師の夫にはなれないよ」と
言った夫が・

奥様 結婚前はスポーツジムの企画の仕事をしていました。あまりに忙しくて体を壊し、辞めようと思つた時に夫とお見合いしました。そのときに「どんなお仕事ですか」と聞くと、10分ほどじっと黙っていた後「次世代のための研究です」って答えたんです。
ご主人 日本原子力研究所にいて、私がかやっていたのは「核融合炉の開発」です。太陽は核融合で光っているし、宇宙の星々も大部

分は核融合で光っています。それなら「地球上に太陽のようなものを作ろう!」という研究です。私がかやっていたのは、核融合でできたエネルギーを閉じ込めておく超電導の装置を作ることでした。

奥様 結婚以来、ずっと主婦の15年が経ち、夫に牧師になりたいと伝えると「クリスチャンの夫にはなれるけれど、牧師の夫にはなれないよ」って。

ご主人 そんなこと言ったかな。奥様 ところが実際には、本当に助けてくれて感謝でいっぱいです。ご主人 母も姉も仕事を持っています、女性が仕事をするのは自然なことだったけど、牧師はちょっと予定していません。夫は随分と不自由を

私は単身赴任の牧師
奥様 牧師になるため、日本基督教団立の東京神学大学に学部2年、大学院に2年。その間学校近くにアパートを借り勉強しました。夫には随分と不自由を

介護になっても最後まで一緒にいられるところ
奥様 私たちは、どちらかが介護が必要になっても、施設内に介護棟があって、行き来しながら、最後まで二人でいられるところがいいなと決めていました。ここに2回目に来た時に、職員の方も入居者の方も何しろ明るい。「これだ!」と。実際に入居して2年目のこと、夫が体調を崩した時、すぐ救急車を手配して、年末の受け入れが難



しい時にも関わらず、病院に事情を話して点滴を受けられるようにしていただきました。自分一人ではあはできません。守られている安心を感じました。
夫がこんなに夢中になつてやる人だとは

奥様 入居して料理もしていますよ。いつも「今日のお料理は何点?」と聞きます。夫は「まあまあ」とか、「70点」「80点」なんて言ってますね。

ご主人 サークルは卓球・謡曲・民謡をやっています。卓球は声をかけてくれた先輩入居者が一生懸命勧誘し、教えてくれました。最初はやれると思つてなかったのですが、だんだん打てるようになって、面白くなりました。市民カレッジにも参加しています。地元の方々と知り合えるのが楽しいですね。

奥様 自身は入居する2年前から牧師から無任所教師に退いていました。心が辞める方向に向かっていたのです。でもここに来たら、職員の皆様から「私たちが支えるからどんどんやってください」と、温かくて強力な援護射撃をもらっています。また牧師の仕事させて頂いています。それに夫がこんなに夢中になつているいろいろなことをやる人だったと、それはまた新たな発見でした。



小樽教会の牧師を務めていた頃の博子様とご主人